

様式(細則 5-2)

平成21年6月23日

浜田市議会議長 牛尾 昭 様

代表者

鎌原 ヤシエ



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察をおこなったので、その結果を報告します。

記

1、期 間 平成21年5月18日～19日

2、視察地 熊本県水俣市

3、参加議員氏名

牛尾 博美

鎌原 ヤシエ

渋谷 幹雄

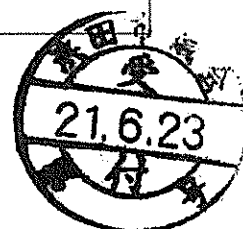
三浦 美穂

三浦 保法

4、精算額 一人あたり 16,689円

5、調査活動の概要

議員調査研究活動として熊本県水俣市において、環境モデル都市としての取り組み及び水俣病の歴史と現状について次のとおり報告します。



調査活動内容

1. 水俣市（一日目）

視察日	平成21年5月18日(月曜日)
視察時間	15:00~17:00
場 所	総合リサイクルセンター
出席者	久木田 美和子 環境企画室長 渕上 大輔 事務局参事 福田 一哉 環境対策課環境クリーンセンター職員
調査目的	環境モデル都市としての取り組みについて

※ 調査概要

熊本県最南端に位置する水俣市は、1980年(昭和41年)日本窒素肥料(株)水俣工場が開設されて以来、企業城下町として発展してきました。しかし、経済成長の過程では、四大公害病の水俣病が湾内で発生し、多くの犠牲者がでました。この教訓をもとに、二度と公害を発生させない環境にこだわったまちづくりを進めようと、1992年(平成4年)に日本で初めて環境モデル都市宣言を行っています。以来、市民・企業・行政が高い意識を持ち世界のモデルとなることを目指しています。

水俣市は国が「環境モデル都市」を認定した全国6自治体(横浜市・富山市・北海道下川町・帯広市・北九州市)のうち、一つになっています。

(1) 環境にいい暮らしづくりの取り組みについて

① ごみの分別収集とリサイクルの取り組み

1993年(平成5年)より分別収集22種類を市内300ヶ所にステーション方式も行っています。

ビンは6種類、電気コード、蛍光管、電球も分別収集されています。

また、分別のほかリサイクル推進委員が中心となってごみの持ち帰り運動、リサイクル運動、不用品を活用するフリーマーケット

ットを実施しています。

生ごみについては2002年から堆肥化を行っています。

② ごみ減量女性連絡会議の結成

婦人会や生協等の女性3,500人がスクラムを組んでごみ減量に取り組んでいます。トレイの76品目について廃止、はかり売りの推進、ノーレジ袋の推進に取り組んでいます。

③ 我が家のISO～家庭版環境ISO～取得の取り組み

各家庭でCO₂削減、資源の有効活用、環境にやさしい暮らしづくりに向け家庭での取り組みを記録し挑戦していくものです。

(2) 環境にいい地域づくりの取り組みについて

① 水俣市環境ISOへの移行について

1999年(平成11年)ISO14001の認証を取得しましたが、地域に密着したISO以上の自立性と主体性を推進するため、2003年(平成15年)に「自己宣言」の表明をされ市民監査委員会が監査を行っています。

② 学校版環境ISOについて

2000年環境にいい学校づくりを進めるために市内の全小学校で環境への取り組みをしています。

③ 旅館、ホテル版環境ISOについて

市内の旅館、ホテル側の要望により創設されています。

(3) 環境にいいものづくりについて

① 環境マイスター制度

環境に配慮したものづくりの面から、地域再生を支えている職人の社会的地位を上げるため認定しています。

※ 感想

以上様々な取り組みをされていますが、市民一人一人がごみの分別などに汗を流し、面倒なことを面倒と思わず、地域ぐるみで省エネ、省資源に努めておられます。このことは市民の高い環境意識と多額の経費を必要と

しない環境保全活動として、多いに参考になりました。浜田市においても今後一層、ごみ減量化への取り組みを市民と一体で実践していかねばならないと実感しました。



2) 水俣市 (二日目)

視察日	平成21年5月19日(火曜日)
視察時間	9:00~11:00
場 所	水俣市立水俣病資料館
調査目的	水俣病とその教訓に関する資料の研究について

※ 調査概要

水俣市立水俣病資料館は広大な敷地に国立水俣病総合研修センターと熊本県環境センターに隣接し、水俣環境学習施設として水俣病の教訓から、環境学習の拠点となっています。ここでは水俣病の歴史と現状について理解を深め悲惨な公害を繰り返すことのないよう教訓を伝えています。

映像展示室では、150インチの大型スクリーンの映像で、水俣病の概要を見ることができました。

また、展示室には水俣病の歴史などをパネル、写真、モニターテレビ等で紹介されています。

※ 感想

水俣病の経験を踏まえて得た貴重な経験、そして環境に関する様々な取り組みをリアルタイムで世界に発信していくことを水俣の使命と考えて、積極的に国際貢献を展開しておられます。地球規模で環境汚染やCO₂の削減が問題提起されている今だからこそ水俣市の果たす役割の大きさを実感することができました。



報告者 三浦 美穂